

## 2040年に向けて目指す産業の姿とは？ —誰もが働きたい企業が集積し、必要な生活サービスが充足する2040年の秋田—

### 目指す姿（具体例）

- 従業員のスキルアップを企業ぐるみで応援している
- 秋田とつながりたい副業人材が活躍している
- 外国人・シニア層など、多様な雇用の場が生まれている

- 住民の日常生活を支える商業・サービス業などが充足している
- 企業の経営を親身にサポートする体制がある
- アントレプレナーシップ教育や起業・事業拡大支援が充実している
- 事業承継した企業価値をアップデートし次世代につなげる「アツギ」が活躍している
- 大学や研究機関と県内企業の交流が活発になっている
- 海外と取引をする企業が活躍している

- 地域の資源を生かした産業が県内経済に活力を与えている
- 脱炭素経営に取り組む先進的な企業が活躍している
- 県内企業が高付加価値製品の開発・製造に取り組んでいる

- 大学進学等を機に県外へ転出した理工系人材や、子育て世代の就業先が充実している
- 知識や経験を生かして十分な収入が得られる環境が整っている

### 取組の方向性

#### 人への投資とビジネス変革による地域経済の活性化

産業を支える人づくり

デジタル技術の積極的な活用  
経営支援体制の充実・強化  
スタートアップ・事業承継支援の推進  
産学官連携の推進  
商品価値の向上・販路拡大

#### ものづくり産業のイノベーション促進と競争力の強化

カーボンニュートラルの実現に向けた環境整備  
GXを支えるものづくり産業の展開  
コア技術の活用によるものづくり産業の振興

#### 質の高い人材を呼び込む産業基盤の整備

高度人材を受け入れる企業の集積

## 【参考】

# 「2040年に向けたシナリオ」の定量化 産業構造・投資・輸出入

- 産業構造は、ベースケースでは、変化がないことによって、問題が生じる。  
新機軸ケースでは、3つの変化に対応することが必要。

ベースケース

### ①製造業

- 過去30年と同様、物量・品質勝負を続け、生産性は一定程度上昇するが、雇用は増えない。

### ②情報通信業・専門サービス業等

- 過去30年の加速トレンドに沿ってサービス輸入が拡大し、生産性向上が乏しく、雇用も減少。

### ③エッセンシャルサービス業（観光（飲食・宿泊業）、小売・卸売、医療・介護、運輸、建設等）

- 過去30年と同様、省力化・デジタル化が不十分。人手不足の中で、生産性低迷で供給が需要に追いつかない。

新機軸ケース

### ①製造業

（社会を変革する製造業X（エックス））

- GX・フロンティア技術による差別化や、DXやメンテナンス等のサービス化等によって高付加価値化  
（物量・品質勝負だけでなく、新需要創出による高付加価値化で世界と勝負）。
- 生産額・輸出額を拡大させ、賃金は全産業平均程度に上昇。
- 雇用は、構成変化して増加（情報処理技術者等が増加、生産工程従事者はほぼ横ばい）。

### ②情報通信業・専門サービス業等

（製造・サービス新需要で成長産業化）

- フロンティア技術等による新需要開拓（製造業の高付加価値化、サービス業の省力化等）で新たな付加価値を創出。
- 生産額・輸出額を拡大させ、各産業への中間投入に必要な輸入も増加する中、付加価値も増加する。
- 雇用は、構成変化（情報処理技術者等の質が向上）し、他産業を上回る賃金水準に。

### ③エッセンシャルサービス業

（アドバンスト・エッセンシャルサービス業）

- イバクト・地域資源/文化等による高付加価値化と、省力化・デジタル化等の補完・高度化で、生産性向上。
- 賃金は他産業に追いつくように上昇し、個人消費による内需拡大の主要部分を担う。
- 雇用は、省力化・デジタル化を使いこなすアドバンスト・エッセンシャルワーカー（情報処理技術者等が増加、サービス従事者は人数は増加しないが多能工化等で質が向上）として、中間層の受け皿となる。

- 民間の国内投資は、次世代投資（研究開発、ソフトウェア・省力化投資）が拡大していく。
- 財・サービス輸出入は、鉱業（資源エネルギー等）と製造業に加え、情報通信・専門サービス業が拡大していく。